

観光地域づくり法人形成・確立計画

記入日：令和5年7月21日

1. 観光地域づくり法人の組織

申請区分 該当するもの で囲むこと	広域連携DMO・ <u>地域連携DMO</u> ・地域DMO	
観光地域づくり法人の名称	(一社) 田川広域観光協会	
マネジメント・マーケティング対象とする区域	区域を構成する地方公共団体名 福岡県、田川市、香春町、添田町、糸田町、川崎町、大任町、赤村、福智町	
所在地	福岡県田川市魚町8-27 三愛ビル	
設立時期	平成24年4月12日	
事業年度	4月1日から翌年3月31日までの1年間	
職員数	3人【常勤3人(正職員3人)】	
代表者(トップ人材：法人の取組について対外的に最終的に責任を負う者) 必ず記入すること	(氏名) 菅原 潔 (出身組織名) 豊前川崎商工会議所	令和2年度に理事長就任。田川郡川崎町に所在する豊前川崎商工会議所会頭、(一社)川崎町観光協会会長を兼務。 福岡県下にスーパーマーケットを展開する会社を経営しており、県内に多くの人脈を有している。
データ分析に基づいたマーケティングに関する責任者(CMO：チーフ・マーケティング・オフィサー) 必ず記入すること	(氏名) 坪根 法広「専従」 (一社) 田川広域観光協会	平成26年度より(一社)田川広域観光協会に勤務。 委託事業である「田川まるごと博物館プロジェクト」を中心に協会の事業を展開してきた。福岡県観光連盟の人材育成事業では研修生を受け入れた実績がある。
財務責任者(CFO：チーフ・フィナンシャル・オフィサー) 必ず記入すること	太田 傳「専従」 (一社) 田川広域観光協会	赤池町役場にて課長職等を歴任し退職後に、(一財)源じいの森の常務として宿泊・温泉施設の経営責任者を務めた。 財務責任者として、協会自己資金である運営強化金の確保に尽力。
各部門(プロモーション)の責任者(専門人材)	氏名) 谷口 美絵「専従」 (一社) 田川広域観光協会	田川地域の地域資源に精通し、地域のブランディングに能力を発揮する。 観光素材の掘り起こし・磨き上げによって企画された体験プログラムは高い人気を誇る。

<p>連携する地方公共団体の担当部署名及び役割</p>	<p>福岡県、田川市、香春町、添田町、糸田町、川崎町、大任町、赤村、福智町</p> <p>【福岡県】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○商工部観光局観光政策課 <ul style="list-style-type: none"> ・新規事業支援等（アドバイス）を受ける。 ○企画・地域振興部市町村振興局政策支援課 <ul style="list-style-type: none"> ・田川地域に関連する観光系予算を措置 <p>【田川市、香春町、添田町、糸田町、川崎町、大任町、赤村、福智町】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○観光課 <ul style="list-style-type: none"> ・田川広域観光協会の事業や活動に対して人材の派遣や公共施設の貸出等の支援。 ・市町村負担金等の各種申請の窓口業務を担う（財政支援）。 ○企画課（総務課） <ul style="list-style-type: none"> ・田川広域観光協会の財政問題や法人として運営体制を協議し、観光地域づくりの推進に係る基本方針を決定（令和5年度以降観光課に一元化）。
<p>連携する事業者名及び役割</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○DMO <ul style="list-style-type: none"> ・広域連携DMO・・・（一社）九州観光地域推進機構 ・地域連携DMO・・・（公益）福岡県観光連盟 ○公共交通事業者等（アクセス改善・ツアー企画等の協力） <ul style="list-style-type: none"> ・九州旅客鉄道株式会社・・・企画協力（臨時観光列車の運行、誘客を目的にしたスタンプラリーの協力、イベント協力） <ul style="list-style-type: none"> 担当部署 <ul style="list-style-type: none"> ・JR九州鉄道事業本部旅行課 ・JR九州筑豊篠栗鉄道事業部 ・平成筑豊鉄道株式会社・・・企画協力（観光列車の運行、誘客を目的にしたスタンプラリーの協力） ・日本航空株式会社・・・企画協力（諸企画におけるスタッフ派遣） <ul style="list-style-type: none"> 担当部署 <ul style="list-style-type: none"> ・日本航空福岡支店 ・田川構内自動車グループ・・・タクシー車内での観光パンフレット配架等 ○道の駅・直売所、温泉施設 <p>田川広域観光協会が各団体等のイベント情報等をホームページ等で情報発信。また、イベント開催時には人材派遣等の交流を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅おおう桜街道・・・誘客に係る企画協力、来館者データの提供 ・道の駅香春・・・誘客に係る企画協力、来館者データの提供 ・道の駅いとだ・・・誘客に係る企画協力、来館者データの提供 ・道の駅歓遊舎ひこさん・・・誘客に係る企画協力、来館者データの提供 ・赤村特産物センター・・・誘客に係る企画協力、来館者データの提供 ・川崎町農産物直売所・・・誘客に係る企画協力、来館者データの提供 ・田川農業協同組合・・・誘客に係る企画協力、来館者データの提供 ・ふくちの郷・・・誘客に係る企画協力、来館者データの提供 ・日王の湯・・・誘客に係る企画協力、来館者データの提供 ・松原温泉・・・誘客に係る企画協力、来館者データの提供 ・源じいの森温泉・・・誘客に係る企画協力、来館者データの提供 ・ふじ湯の里・・・誘客に係る企画協力、来館者データの提供 ○まちづくり団体 <ul style="list-style-type: none"> ・（一社）川崎町観光協会・・・企画協力（観光商品造成、人材等派遣） ・香春町観光協会・・・企画協力（観光商品造成、人材等派遣） ・田川市観光協会・・・企画協力（観光商品造成、人材等派遣）

	<ul style="list-style-type: none"> ・田川青年会議所・・・企画協力・人材派遣 ・田川商工会議所青年部・・・企画協力・人材派遣 ○（一社）田川広域観光協会ボランティアと専門部会 <ul style="list-style-type: none"> ・情報発信部会・・・マーケティング、Webデータの解析 ・田川観光プロデュース部会・誘客活動、地元でのおもてなし活動 ・温泉施設代表者部会・・・入館者データ等の情報交換 ・交通部会・・・情報発信等の協力 <p style="text-align: center;">観光関連会社やまちづくり団体の職員、会員により組織されている。</p>
官民・産業間・地域間との持続可能な連携を図るための合意形成の仕組み	<p>【該当する登録要件】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○理事会 <p>（一社）田川広域観光協会の業務における意思決定機関である理事会は構成市町村の首長及び構成市町村議会議長、地元選出県会議員、商工関係代表、青年会議所理事長など多様な関係機関の代表者等で構成される。理事会の下には4つの専門部会を設置し、事業の実施に係る連絡調整や観光戦略の共有を図っている。</p> ○観光担当者・部会長会議 <p>田川地域8市町村の観光担当職員や福岡県職員と（一社）田川広域観光協会を含む観光団体との連絡調整を行う会議。月に1回程度開催しており観光に係る各種連絡や報告とイベント等の企画調整を行う。</p> ○まちづくりプロデューサー会議(ボランティア部会、専門部会) <p>情報発信部会と田川観光プロデュース部会から構成される（一社）田川広域観光協会の事業をサポートするボランティア団体。構成メンバーは青年会議所や観光団体等の会員、職員等で構成されており、飲食業や宿泊業経営者など多様な構成員で組織されている。</p>
地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発・参画促進の取組	<ul style="list-style-type: none"> ○観光まちづくりを目的にした各種セミナーやフォーラムの開催 <p>平成24年度の（一社）田川広域観光協会の設立の翌年より、観光振興によるまちづくりの機運を高めることを目的にまちづくりフォーラムを実施している。</p> ○マーケティング・マネジメント対象地域での会員獲得 <p>観光地域づくりの基盤づくりや地域住民への理解を求めため（一社）田川広域観光協会の会員を募る活動を商工会議所や商工会の協力のもと実施。</p> ○まちづくり団体との共同イベントの実施 <p>田川商工会議所青年部、伊田町商店街組合（田川市）などの地元まちづくり団体と共同でイベントを実施し（令和4年11月）誘客を実施。</p> ○各種イベント実施におけるボランティアの受入れ <p>（一社）田川広域観光協会が実施する大型イベントに地元の大学生や高校生等のボランティアを受入れており、地域住民と共にイベントを企画実施する取り組みを行なっている。</p> <p>令和5年度より、学生ボランティアの受入を再実施の予定。</p> ○郷土史誌「新・田川紀行販売」 <p>田川地域の観光や歴史・文化をまとめた約440ページの冊子を販売</p>
法人のこれまでの活動実績	<p>【活動の概要】</p> <p>平成23年4月、日本で初めてユネスコの「世界の記憶」に「山本作兵衛コレクション」が登録され、地域における観光振興の盛上りを受け（一社）田川広域観光協会が設立された。平成26年度から田川地域への交流人口の獲得を目的に体験交流プログラムの開発や福岡・北九州都市圏を中心としたプロモーション活動、観光誌の定期発行を実施している。また、地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発、参画促進の取り組みは協会設立からの重点施策であり、協会運営の支えとなる「まちづくりプロデューサー」の育成と活用、地</p>

域住民に啓発を促す「まちづくりフォーラム」を基幹事業として実施している。

《情報発信・プロモーション活動・環境整備》

観光誌「はっち」の発行

・観光誌を平成25年度より毎年2回、各号30,000部程度発行している。

令和4年度の実績として、9月と3月に福岡県下を中心に約550施設に配架した。



スタンプラリーの実施

・田川地域における観光客の回遊性を高めることを目的に年2回程度実施。平成28年度より継続。令和5年度末現在、20施設が参加。

福岡・北九州都市圏での観光PR活動

・田川地域のPRするため、福岡・北九州都市圏にてPR活動を毎年実施している。令和4年度は、福岡市中央区、博多区で実施。

協会ホームページ「たがわネット」の運営

・平成24年度よりホームページを運営。田川地域のイベント情報などを掲載している。

・アクセス数の変化

令和3年度23万7千回 令和4年度約27万9千回

SNS等を活用した情報発信

・上記ホームページのイベント情報や地域イベントの様子を投稿。

《観光セミナー・住民参画事業・受入環境の整備》

まちづくりフォーラムの開催

・平成25年度より地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発や参画促進を目的に実施している。平成27年度に実施した地域の歴史に係るフォーラムに約500名以上が参加し、以後、地域の歴史や文化を考え観光振興に寄与することを目的に実施している。

田川古代史講座の開催

・平成27年度に実施したまちづくりフォーラムの反響を受け、地域で活動する市町村と郷土史会と連携し歴史を学ぶ場として開催している。

・令和4年度開催数は4回、参加者数は合計300人

なお、講座はYouTubeにて動画配している。視聴回数は約7万回

各種セミナーの実施

・地域住民や観光産業従事者、市町村職員向けに各種セミナーを実施している。

開催年度	内容	参加者数
令和元年度	・マーケティングセミナー 民泊や地域資源の磨き上げについてのセミナーを開催	30名
令和2年度	・マーケティングセミナー 講師 鞍掛 斉也	40名

	(平戸城キャッスルスティ代表取締役) 講師 四元 正弘 (大阪大学特任教授) 講師 坂本和彦 (元日本ケンタッキーフライドチキン 執行役員)	
令和3年度 令和4年度	・開催中止 新型コロナウイルス感染症の感染防 止の観点から中止	
令和5年度	・先進地研修及びセミナー 観光地域づくり法人等を視察研修	研修人数は 約20名程 度

《観光資源の磨き上げや商品等の開発》

あったがわの旅の実施

体験プログラム等を通して田川地域の魅力を伝え交流人口の拡大を図る事業。平成25年度より実施しており、平成30年度からJR九州の協力により観光列車を田川地域に入線させ注目を集める。

開催年度	合計開催数・主なプログラム	総参加者数
令和元年度	・合計4本(新型コロナウイルス感染症感 染防止のため1本中止) ・インバウンドツアー ・日田彦山線観光列車入線ツアー	160名
令和2年度	・合計4本開催 ・日田彦山線観光列車入線 YouTuber スーツさんとタイアップ 使用車両「かわせみ やませみ」 ・トレッキング・登山企画(2本) ・バスツアー(マイクロツーリズム)	132名
令和3年度	委託事業元より、新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から事業の代替指示があったため、観光PR動画の製作を実施した。しかし、連携企業との協議により、協会自主事業として、JR九州及び日本航空とのコラボ企画を実施した。 ・A列車で行こう!日田彦山線ツアー	100名
令和4年度	・合計5本開催 ・日田彦山線観光列車入線 ・トレッキング、登山、オルレ	167名



九州オルレの開発支援事業

九州観光推進機構が整備する九州オルレは、韓国の済州オルレの姉妹版

あり、田川郡香春町に平成29年に新設したコース整備に協力。令和4年度の利用者は718人である

《マーケティングに係る調査》

交流人口動態調査

田川地域で開催されている道の駅や大型イベント会場等にて来場車両ナンバー調査、性別、年齢、来訪目的等を調査する対面ヒアリングアンケートを実施している。アンケート調査結果は関係団体に配付。

- ・令和2年度は各種イベントが中止になったため、交流人口動態調査は未実施。調査サンプル数150。
- ・令和3年度は福岡市中央区天神にて観光動態調査を実施した。アンケート回収数は147。
- ・令和4年度も福岡市中央区天神にて約300のアンケートを回収・分析した。

会費獲得活動

田川広域観光協会では自主財源確保のため会員増強活動を実施している。会員には協会が主催するイベント等のチケットや記念品を配付し会員の維持促進に努めている。

年度	会員数 (法人口数・個人口数)	会費合計
令和元年度	90口・294口	1,782千円
令和2年度	85口・246口	1,588千円
令和3年度	86口・187口	1,421千円
令和4年度	67口・156口	1,138千円

【定量的な評価】

項目	数値	前年比
旅行消費額	3,704百円	前年比160%
延べ宿泊者数	204千人	前年比108%
観光入込客数	3,458千人	前年比118%
体験プログラム数・参加者数	開催本数 5本 参加者 167人	前年比250% 前年比167%
会費総額	1,138千円	前年比80%

実施体制

地域の関係者との連携体制及び地域における合意形成の仕組みが分かる図表等を必ず記入すること(別添可)。

【実施体制の概要】

(一社)田川広域観光協会は田川地域の1市6町1村が運営に参画しており、各種会議で意見交換や協議を実施している。協会の各種事業展開における意思決定機関は理事会であり、1市6町1村の首長や商工会議所、商工会、交通事業者等の代表で構成される。

事業への協力体制強化のため月1回程度の行政観光担当者と協会事務局の会議を開催している。令和4年度は、コロナ禍のため、5回開催。

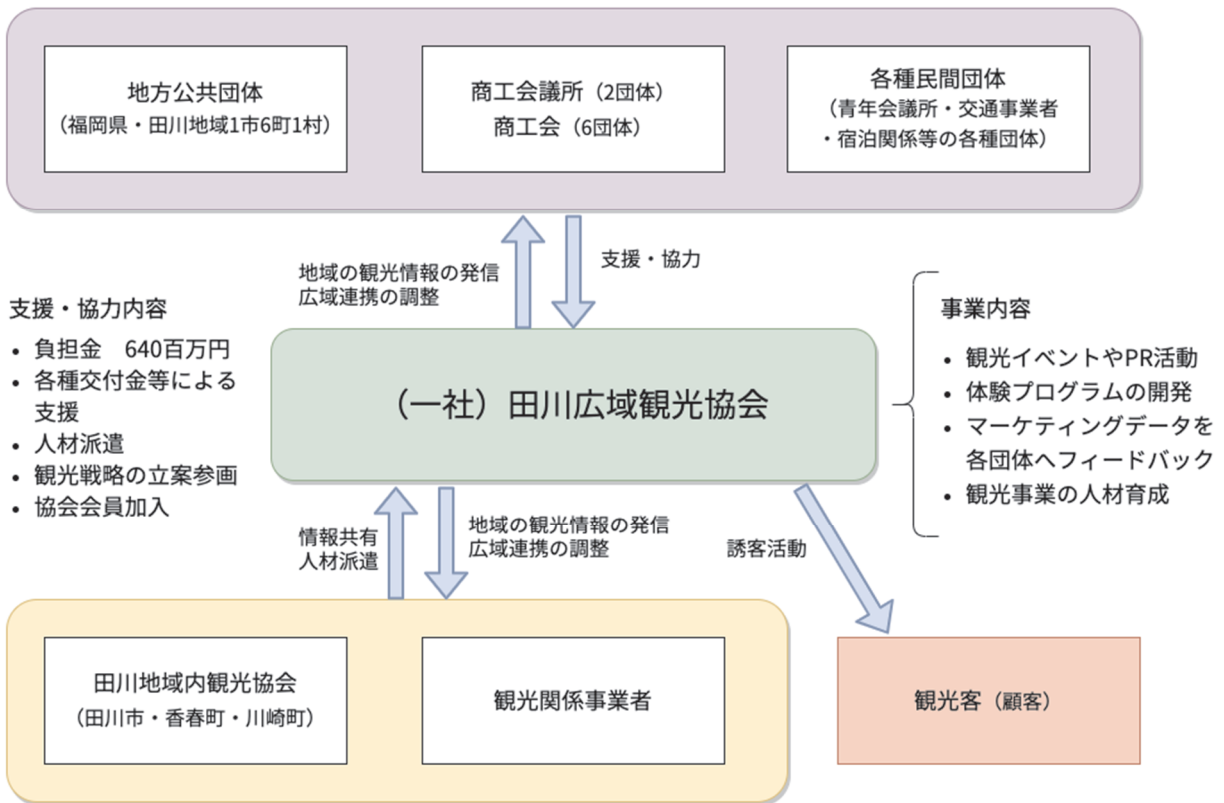
1市6町1村の観光振興を担う協会であることから広域連携の調整役として、各種団体との協議や大型イベントの運営等を実施している。さらに、地域に点在する他の観光協会と観光施策や各種観光イベント情報等の情報共有や人材派遣を実施し広域的な観光事業の展開を図っている。

観光関係事業者との連絡・調整を図るため、温泉施設、道の駅等の直売所、交通事業者と各部会や事業を通じて体験プログラムの開発や地域の情報の把握に努めている。

行政や商工会議所・商工会、観光関係事業者が参加できる各種セミナーの開催、観光マーケティングデータの分析結果の配付等を通じて情報や知識の共有を図っている。

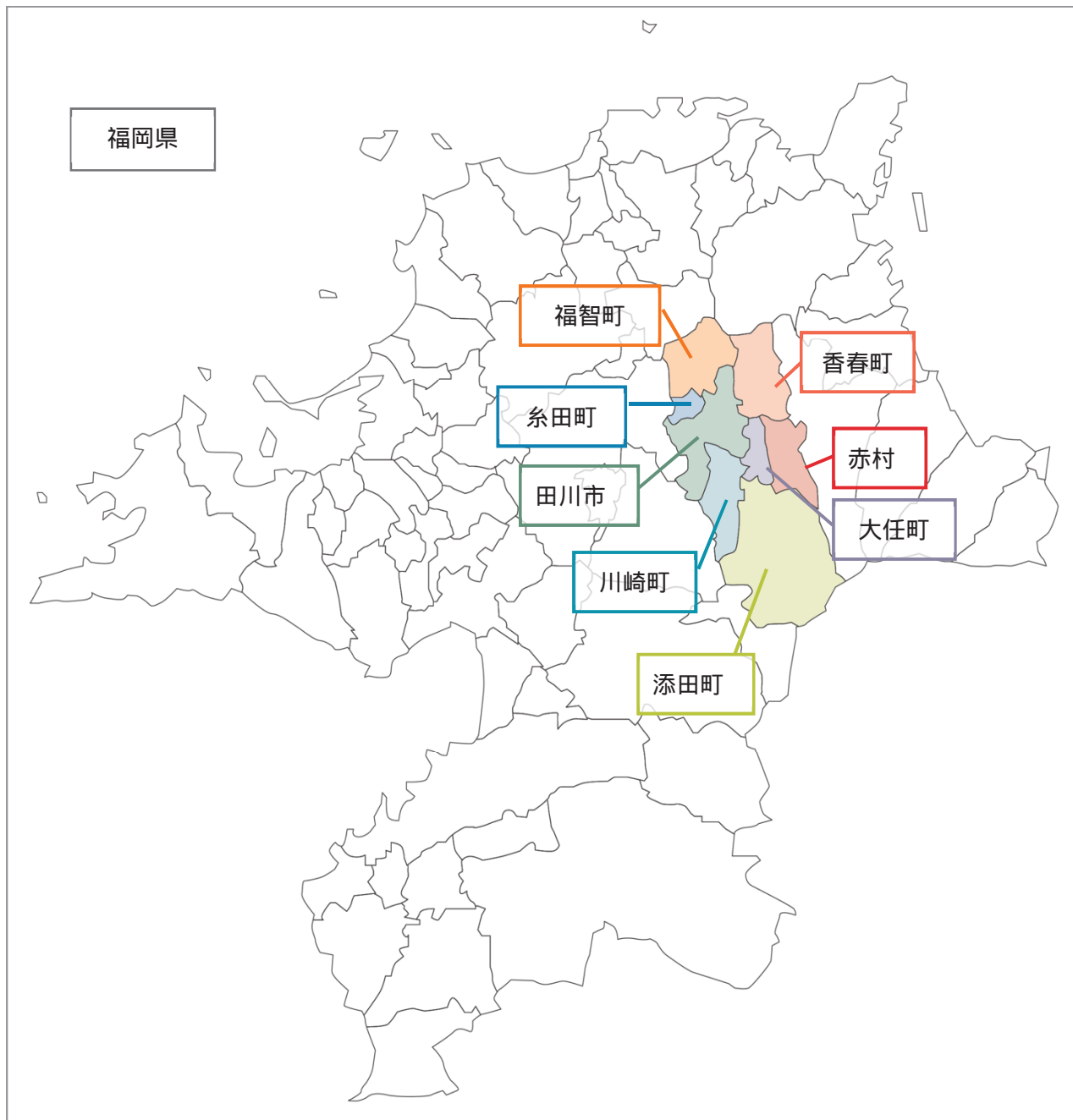
【実施体制図】
次項参照

実施体制図



2. 観光地域づくり法人がマネジメント・マーケティングする区域

【区域の範囲が分かる図表を挿入】



【区域設定の考え方】

田川地域の1市6町1村の広域的観光施策として、平成18年に田川地域観光戦略策定協議会を設置し、翌年に地域の大学や観光事業者を加える形で田川地域観光推進会議を新設した。(一社)田川広域観光協会設立以前より、「田川はひとつ」というコンセプトのもと広域的観光振興に努めており、平成24年に田川広域観光協会が設立されたことにより、官民一体となった効果的な観光プロモーションを共同実施できるようになった。また、田川地域の1市6町1村は歴史的・文化的な面や北九州工業地帯を形成する地域という経済的側面からみても共通点が多く、当該市町村で広域連携した区域設定が適切である。

【観光客の実態等】

年度	観光客入込客数	延べ宿泊者数	消費額等
平成30年度	4,599千人	205千人	3,422百万円
令和元年度	4,564千人	192千人	2,165百万円
令和2年度	3,243千人	145千人	2,165百万円
令和3年度	2,913千人	189千人	2,315百万円
令和4年度	3,704千人	204千人	3,458百万円

(データは、福岡県観光統計(平成30年度まで)、田川広域観光協会(令和元年度より))

【観光資源：観光施設、商業施設、自然、文化、スポーツ、イベント等】

<観光施設・文化施設・商業施設>

田川市：石炭記念公園及び田川市石炭・歴史博物館(山本作兵衛コレクション)、田川市市民プール、田川市美術館、来てみんなかながわ、松原温泉、あおざり

香春町：香春町歴史資料館、道の駅香春、香春神社、神間歩

添田町：道の駅歓遊舎ひこさん、ひこさんホテル和(温泉)、英彦山神宮、旧数山家住宅、深倉峡、英彦山修験道館、フォレストアドベンチャー・添田、BRTひこぼしライン(令和5年開業予定)

糸田町：道の駅いとだ、金山アジサイ公園、無双窯

川崎町：藤江氏魚楽園(休園中)、De・愛、ラピュタファーム

大任町：道の駅おおとう桜街道(直売所・温泉)、おおとう花公園

赤 村：赤村特産物センター、源じいの森(温泉・キャンプ場等)、トロッコ

福智町：ふくちのち(福智町立図書館・歴史資料館)、日王の湯、ふじ湯の里、ふれあい塾、上野焼陶芸館、城山横穴群

<自然・スポーツ>

田川市：岩屋鍾乳洞、ロマンスが丘、成道寺公園、田川市総合体育館(アリーナ、トレーニング施設等)

香春町：香春岳、呉ダム溪流公園、九州自然歩道、総合運動公園

添田町：九州自然歩道、英彦山、深倉峡、鬼杉、男魂岩、岩石山、英彦山花公園、英彦山登山、サンスポーツランド、フォレストアドベンチャー・添田

糸田町：水落の滝、糸田町民グラウンド

川崎町：安宅の彼岸花、安宅の滝、田代の森、戸谷山、福岡フェザントカントリークラブ

大任町：成道の滝、(彦山川)水辺公園、菅原神社のイチイガシ、各種運動場、鷹羽ロイヤルカントリークラブ、B&G海洋センター

赤 村：戸城山、九州自然歩道、ゲンジボタル、オオサンショウウオ

福智町：福智山、上野峡、白糸の滝、虎尾桜、定禅寺の滝、B&G海洋センター、金田ふれあいスポーツ公園

<歴史・文化・イベント>

田川市：風治八幡宮川渡り神幸祭、TAGAWA コールマイン・フェスティバル~炭坑節まつり~、「炭坑節」発祥の地、菓子(黒ダイヤ、白ダイヤ)、ホルモン鍋

香春町：ふる里かわら夏祭り、ふる里かわら秋祭り、古宮八幡神社神幸祭、流鏝馬、仲哀トンネル

添田町：そえだ夏祭り、ふる里まつり、英彦山山開き、英彦山サイクルタイムトライアル大会

糸田町：糸田祇園山笠、田植祭

川崎町：あたか棚田彼岸花まつり、かわさきパン博、魚楽園紅葉ライトアップ

大任町：おおとうしじみ祭り、道の駅イルミネーション、道の駅おおとう桜街道夏祭り

赤 村：各地区神幸祭、赤村トロッコ定期運行、DO YOU 農?、石坂トンネル

福智町：福智スイーツ大茶会、上野焼窯開き(春・秋)、金田・神崎山笠競演会

日本の近代化を支えた石炭産業に関係する観光施設や文化財が田川市を中心に多数点在しており、広域的にそれらを結び付け一元的に観光情報を発信することで観光資源としての価値を高める。また、

神事等の伝統行事が田川地域内で多数残っており、特に田川市の風治八幡宮川渡り神幸祭は福岡五大祭のひとつであり、田川地域で開催される他の神幸祭と合わせて「田川の祭り」として写真展等のイベントや冊子を発行し情報発信をしている。さらに、田川地域では複数の市町村で大型イベントが開催されており、JR九州などの観光列車や臨時列車等の運転により誘客に繋がる取り組みを強化する。

【宿泊施設：域内分布、施設数、収容力、施設規模等】

市町村名	宿泊施設数	部屋数	収容人数	備考
田川市	6	170	266	
香春町	1	91	116	
添田町	3	80	572	公共の研修宿泊施設含む
赤村	1	18	62	
福智町	2	10	88	公共の研修宿泊施設含む
合計	13	369	1,104	

【利便性：区域までの交通、域内交通】

航空機・高速船（主要空港（港湾）から福岡県内空港（港湾）までの所要時間）

田川地域から交通アクセスの良い北九州空港までの所要時間は田川市から約45分、福岡空港までは約1時間10分程度である。また、福岡県は韓国とのアクセスも非常に多く多数の空路や航路の定期便が就航している。

出発空港（港）	到着空港（港）	所要時間	備考
羽田空港	福岡空港	約1時間40分	
関西国際空港	福岡空港	約1時間	
中部国際空港	福岡空港	約1時間30分	
新千歳空港	福岡空港	約2時間15分	
仁川国際空港	福岡空港	約1時間15分	
羽田空港	北九州空港	約1時間15分	
仁川国際空港	北九州空港	約1時間15分	
釜山港	博多港	約3時間	高速船

JR（新幹線）

田川地域における新幹線が停車する最寄りの駅はJR小倉駅である。

出発駅	到着埠	所要時間
新大阪	小倉駅	約2時間15分
広島駅	小倉駅	約50分

県内での移動（公共交通機関）

県内主要都市（福岡市・北九州市）から鉄道路線で繋がっており臨時ではあるが観光列車の運行もなされる。また、九州最大の繁華街である福岡市の天神から直通バスが運行しており利便性が良い。

出発地	到着場所	所要時間	備考
西鉄天神（福岡市）	後藤寺（田川市）	約1時間10分	西鉄バス
博多駅（福岡市）	田川後藤寺駅（田川市）	約1時間10分	JR九州
小倉駅（北九州市）	田川後藤寺駅（田川市）	約1時間	JR九州

県内での移動（自動車）

福岡市や北九州市からの所要時間は約1時間から1時間10分程度であるが、高速道路のインターは約25分から約45分程度の場所にあることから県外からの高速道路を使用した場合の利便性は高い。

出発地	到着場所	所要時間
福岡市	田川市	約 1 時間 0 0 分
北九州市	田川市	約 1 時間
福岡 I C	田川市	約 4 5 分
小倉南 I C	田川市	約 2 5 分
八幡 I C	田川市	約 3 5 分

域内交通

田川地域には J R 九州日田彦山線、後藤寺線と第三セクターである平成筑豊鉄道伊田線、田川線、糸田線の合計 5 本の鉄道路線がある。また、路線バス（西鉄）も複数路線を運行し、各市町村は独自でコミュニティバスを運行しているため地域交通は充実している。

【外国人観光客への対応】

- ・観光誌等のパンフレットを多言語化対応。
- ・九州に滞在する外国人を対象としたモニターツアーを実施し、おもてなしのスキルをアップする取り組みを実施している。
- ・令和 4 年度は九州オルレ「筑豊・香春コース」の売り込みを観光旅行会社（韓国）と商談を実施。
- ・インバウンドに対応できる日本航空や J R 九州などと連携し、インバウンドの嗜好に合わせた企画を立案する。

3 . 各種データ等の継続的な収集・分析

収集するデータ	収集の目的	収集方法
WEBサイトのアクセス状況	田川地域に対する関心度や情報発信力・効果を把握するため。	管理委託先から定期報告を受ける。
観光入込客数	田川地域への観光入込客数を把握のため。	福岡県が過去に実施していた観光統計調査を当協会が引継ぎマネジメントエリアにて実施。
旅行消費額	田川地域の経済効果・消費者のニーズを把握するため。	福岡県が過去に実施していた観光統計調査を当協会が引継ぎマネジメントエリアにて実施。
延べ宿泊者数	田川地域内の延べ宿泊者数や宿泊施設の稼働率を把握するため。	福岡県が過去に実施していた観光統計調査を当協会が引継ぎマネジメントエリアにて実施
来訪者満足度・リピーター率	観光地としてサービス・満足度の向上につなげるため。	各種アンケート調査による。 令和 4 年度は対面式アンケートを実施（福岡市）

4 . 戦略

(1) 地域における観光を取り巻く背景

東京オリンピックが開催された昭和39年に、筑豊炭田最大の事業所である三井田川鉱業所が合理化により整理され、その後10年以内に田川地域の炭鉱は全て閉山した。石炭産業に次ぐ基幹産業であるセメント産業も平成不況により工場の閉鎖や減産を受け基幹産業の縮小による過疎化や労働人口の減少など田川地域は大きな問題を抱えることになった。そのような中で、平成23年5月、日本で初めてユネスコの「世界の記憶」に「山本作兵衛コレクション」が選定され山本作兵衛翁が遺した、かつて日本の近代化と戦後の発展を支えたヤマの記録画と文書が世界の集合的記憶として高く評価されたことにより、地域における観光振興の盛り上がりを受け(一社)田川広域観光協会が設立された。

田川地域では、人口の流失を防ぎ、定住を進めるための対策として、中心市宣言した田川市と近隣6町1村がそれぞれ定住自立圏形成協定を結び田川定住自立圏共生ビジョンを策定し、それぞれの魅力を活用し連携・協力する取り組みを平成29年より実施している。そのビジョンの中で産業振興における取り組みとして、平成28年に日本版DMO候補法人に登録された田川広域観光協会と連携し、圏域外からの交流人口の獲得、伝統文化や炭鉱関連施設等を活かした観光商品の開発等の観光振興に係るビジョンが描かれている。

1市6町1村が合意した田川定住自立圏共生ビジョンのもと、田川地域の魅力を継続的に発信することにより、地域の歴史や文化に対して一体感の醸成と地域の個性を生み出す機会につながり、まちづくりの機運を高めることができる。将来的に民間資本による環境整備投資を引き出し、田川地域を鉱業都市から観光都市へ転都させるべく、「田川はひとつ」のコンセプトのもと強力に事業を推進している。なお、上記の取組みの一例として、令和4年12月19日には、添田町の英彦山に関する文化財の保護や地域振興を目的に地元経済界などでつくる「英彦山の歴史と文化を守る会」が設立され、今後、本格化する英彦山神宮上宮の改修工事やインバウンドの回復を見据え、当協会が中核になり地域一丸で支援していく体制が確立された。



「英彦山の歴史と文化を守る会設立総会」
(R4年12月、当協会菅原理事長の挨拶)

(2) 地域の強みと弱み

	好影響	悪影響
内部環境	<p>強み (Strengths)</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界の記憶「山本作兵衛コレクション」を田川市石炭・歴史博物館等が所有している。 日田彦山線BRT「ひこぼしライン」の開業が予定されている。 地元経済界などでつくる「英彦山の歴史と文化を守る会」が設立され、今後本格化する英彦山神宮上宮の改修工事やインバウンド獲得の動きが本格化。 	<p>弱み (Weaknesses)</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光消費額(客単価)を底上げできる宿泊施設が不足している。 外国語のパンフレットや宿泊施設等のインバウンド対応が不完全である。 観光産業へ投資できる企業が少ない。 福岡市、北九州市から移動時間に1時間程度の時間を要す。 旧産炭地としてのイメージが残っている。 大型観光施設や魅力的な観光施設が不足している。 1市6町1村にて観光振興へのスタンスに

	<ul style="list-style-type: none"> ・五木寛之氏の小説「青春の門」の舞台であり、全国的に「香春岳」や「炭鉱」というキーワードが知られている。 ・筑豊炭田最大の炭鉱である三井田川鉱業所の公園化や保存、資料等の保存（石炭産業に關係する専門の博物館）など長年に渡り実施している。 ・「炭坑節」発祥の地であり、TAGAWA コールマイン・フェスティバル～炭坑節まつり～等の開催により文化や等の普及が図られている。 ・多彩な神事（神幸祭）が行われている。 ・道の駅が4つもあり、他にも農産物直売所等の施設が多数ある。 ・第3セクターの平成筑豊鉄道が豪華観光列車を運行している。 ・田川地域では観光以外にも広域連携を実施しており、住民の意識に「田川はひとつ」という認識がある。 ・九州オルレなどのトレッキングコースがある。 	<p>違いがみられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・
<p>外部環境</p>	<p>機会（Opportunity）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旅行形態の多様化による滞在交流型観光が注目されている。 ・国の観光政策による後押し。 ・JR九州による観光列車運行（臨時）による日田彦山線沿線の活性化を目的として事業の展開。 ・日田彦山線BRTひこぼしラインの開業による民間企業の後押し、実証事業の参加。 	<p>脅威（Threat）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光事業における従業員等の人材不足。 ・福岡市への一極集中による北九州都市圏の規模縮小による交流人口等の減少。 ・インバウンドの宿泊地である福岡市の宿泊施設が不足しており、海外旅行会社との調整が難しい。

（3）ターゲット

<p>第1ターゲット層 福岡市・北九州市及びその周辺に住む60歳以上のシニア層</p>
<p>選定の理由</p> <p>福岡県における日本人宿泊者の居住割合(九州運輸局2022)をみると、全体の41.4%が九州域内であり、県民の宿泊者割合は28.9%である。この県民割合が高い数値は、九州7県で宮崎県に次いで2番目の数値である。また、「九州の観光は九州」と言われる言葉があるように、九州地域における宿泊の半数は九州地域の住民が占めている。特に、政令指定都市である福岡市と北九州市の人口は福岡県の人口の約半数である約250万人（九州の人口の約20%）を占めており、九州地域において、最大のターゲット対象地域と言え、田川地域における両市からの来訪者割合は約45.6%（令和4年度の来訪調査）を占めている。</p> <p>ターゲット層の年齢を定めるにあたり、北九州市における65歳以上の人口割合は、31.8%（(286,177人)令和2年国勢調査）であり、全国で最も高い水準である。なお、福岡市の65歳以上の割合は22.1%（(338,930人)令和2年国勢調査）と低い水準であるが、令和7年度には1.6%程度増加することが見込まれており、福岡市の人口に占める65歳以上の増加率は全国的にも高い水準で推移することが予想されていることから、60歳以上の年齢を第1ターゲットとした。</p> <p>田川地域は両市から車で1時間程度の距離にあり、日帰り観光には適した距離にあり、複数回の来訪が期待でき、60歳以上のシニア層は、時間的・金銭的にもゆとりがあり、田川地域には道の駅</p>

<p>4 施設や多数の農産物直売所が点在しており来訪動機を得やすい。また、新規バイパスの2車線化などによる交通アクセスの改善から、両市からの住民を第1ターゲットに選定した。</p>	
<p>取組方針 福岡市や北九州におけるPR活動として両市に立地する大型商業施設における販売促進活動やスタンプリ機能が付随した観光誌の戸別配布によるPR活動を実施している。また、福岡県観光連盟のホームページ等の他団体Webサイトにおいて情報発信を実施している。</p>	
<p>第2ターゲット層 産業遺産を中心とした歴史等に関心がある層</p>	
<p>日本の近代化を支えた筑豊炭田の中でも田川地域には多くの文化財や遺構が多数残っており来訪の目的になっている。世界の記憶に選定された「山本作兵衛コレクション」、平成30年に国の史跡に指定された三井田川鉱業所伊田坑跡を含む「筑豊炭田遺跡群」は日本の近代化を知るうえで重要な価値を有す。なお、史跡に所在する田川市石炭・歴史博物館の入館者（令和4年度における有料入館者数）は10,776人であり、地域外の利用者が85%（県外36%）である。また、石炭や石灰石を輸送する目的に敷設された鉄道路線が5路線も残っており、電化されていない路線には架線がないため気動車等の観光列車の運行には乗車客や写真愛好家が多数訪れる。 産業遺産だけではなく、添田町の英彦山は日本三大修験道の霊場の一つとして広く九州全域の人々の信仰を集めていた山であり、霊山にふさわしく、樹齢1,200年といわれる鬼杉を筆頭に巨木が林立し、奇岩や怪岩が点在し、英彦山ならではの自然景観が今も残っている。なお、英彦山における最も有効的な観光データとして、有料のスロープカー利用者は105,030人（令和4年度）であり、田川地域最大の観光スポットとなっている。 田川地域には近代化による産業遺産だけではなく、古代、中世を中心とした文化財や遺跡が多数残っており有効的に活用することで歴史愛好家の来訪に繋がる。</p>	
<p>取組方針 産業遺産や現在でも産出される石灰石をテーマにした工場体験や石炭産業を学べるツアーの実施により誘客活動を実施している。</p>	
<p>ターゲット層 歴史や自然体験を求める韓国からのインバウンド</p>	
<p>選定の理由 古くから田川地域を含む北部九州と朝鮮半島は交流が盛んであり、朝鮮半島ゆかりの文化財等が多く所在しており、訪日客も一定数いる。 九州観光推進機構が整備する九州オルレは、韓国の済州オルレの姉妹版であり、田川郡香春町に平成29年に新設され、福岡県観光連盟の協力・支援のもと韓国からの誘客が実施されている。 九州の入国外国人の約7割は東アジア人が占めていることや福岡県からの地理的な近さを考えると、韓国を中心とした東アジア人は田川地域と大陸との交流の歴史や自然景観を観光資源とした取り組みを行うには適したターゲットと考える。</p>	
<p>取組方針 九州オルレ筑豊・香春コースへ参加を目的とした日帰りバスツアーの助成やパンフレット等の作成による集客を実施している。</p>	

(4) 観光地域づくりのコンセプト

コンセプト	大空がミュージアム ～ 巡る、触れる、体感する 観光まちづくり～
コンセプトの考え方	「観光による地域振興」とは「まちづくり」であるという（一社）田川広域観光協会の協会理念をもとに各種事業の展開を図っていく。 認知度調査から田川地域における認知度キーワードの上位は「石炭」、「香春岳」、「英彦山」など歴史や史跡（名勝）と直結したのことが多い。また、来訪目的の調査から福岡市や北九州市から車で1時間程度の立地であるため気軽

	<p>に訪れることができ、地域の特産品を道の駅をはじめとする直売所で購入できることも田川地域への来訪目的である。</p> <p>観光・農業・歴史・文化・食といった豊富な観光資源を活用した観光商品の造成・販売することで田川地域の観光振興に努めることで交流人口の拡大を図る。交流人口の拡大により田川地域にある「観光資源を巡り、人々と触れ合い、感動を体験する」を通じて一人でも多くの田川ファンを増やす目的が込められている。</p>
--	--

5 . 関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

項目	概要
<p>戦略の多様な関係者との共有 頻度が分かるよう記入すること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・(一社) 田川広域観光協会の総会や理事会を通じて広域連携の代表者間で協会事業方針や事業展開などの合意形成を図る。 ・観光担当者・部会長会議、まちづくりプロデューサー会議において多様な関係者との意見交換を行うことで、実務者同士での観光戦略の共有を図る。また、大型イベントや観光に関係するセミナーを共同開催することで協同組織としての意識を高める。 ・観光人材を育成するため他の観光協会、観光事業者等とセミナーを実施しおもてなしの向上や最新のビジネスモデル等を学ぶ研修を実施し、関連事業者の支援を行う。 <p>< 共有手段 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・理事会並びに総会（令和4年度2回実施） 田川地域1市6町1村の市町村長をはじめとする理事・監事等に対して事業報告、年度事業報告を実施する。また、動態調査などから分析したマーケティング情報を報告し情報共有を図る。 正・副理事長会議は11回開催 理事で構成される商工会議所会頭・商工会会長会議（8団体）は5回開催 ・観光担当者・部会長会議（令和4年度5回実施） 田川地域の観光戦略や事業展開について上記会議にて協議している。また、マーケティング調査等の分析結果を積極的にフィードバックしている。 ・まちづくりプロデューサー会議（令和4年度14回（2部会合計）） 田川地域の観光協会職員、青年会議所会員、宿泊事業者等から構成されており、マーケティングの分析結果のフィードバックや各種団体の観光事業等の情報交換を実施している。 ・温泉施設部会（令和4年度2回実施） 入館者データの提供、スタンプラリー等の企画、共通温泉券の販売などを話し合う。 ・交通部会（令和4年度1回実施） 交通アクセスの改善、パンフレットの配架などを協議
<p>観光客に提供するサービスについて、維持・向上・評価する仕組みや体制の構築</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・対象地域の自治体や関係団体等にマーケティング調査の分析結果をフィードバックすることにより、観光客のニーズをサービス等に反映させることにより、来訪者満足度の向上につなげる。 ・観光振興につながる各種セミナーを実施することで、他地域の観光戦略を学ぶことで新しいサービスやおもてなし方法を創成する。 ・令和3年度、令和4年度は対面形式のセミナー等は中止しており、令

	<p>和 5 年度は、先進地研修等（長崎県平戸市、岡山県矢掛町、熊本県阿蘇近隣等）を予定している。</p>
<p>観光客に対する地域一体となった戦略に基づく一元的な情報発信・プロモーション</p>	<p>個別の自治体における観光 P R は各自治体で実施し、広域的な観光 P R（広域情報を掲載した観光誌の発行や首都圏等での物産販売等）は田川広域観光協会が実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田川地域の観光情報発信サイトである「たがわネット」により、地域のイベント情報は一元的に発信されている。 ・年間 2 回発行（合計 6 0 , 0 0 0 部発行）する観光誌「はっち」により秋と春の観光シーズンの情報を北九州市や福岡市を中心に発信している。また、交通事業者との間には観光誌の配架に関する合意形成が出来ており、鉄道駅舎やタクシーで観光誌を配付している。 ・田川地域内に点在する道の駅 4 施設の情報発信コーナーにてイベント情報等の情報発信協力の構築ができています。 ・8 市町村の広報（回覧板）等にて、イベント情報などを自治体の枠を越えて配架できる取組みを実施できる。 ・令和 5 年は羽田空港にて、マーケティングエリアの観光促進活動を実施する予定である。

6 . K P I (実績・目標)

(1) 必須 K P I

指標項目		2020 (R 2) 年度	2021 (R 3) 年度	2022 (R 4) 年度	2023 (R 5) 年度	2024 (R 6) 年度	2025 (R 7) 年度
旅行消費額 (百万円)	目標	2,900 (40)	2,500 (50)	3,010 (20)	4,074 (80)	4,481 (80)	4,800 (100)
	実績	2,165 (1)	2,315 (1)	3,704 (37)			
延べ宿泊者数 (千人)	目標	180 (2)	150 (1)	205 (2)	210 (2)	220 (2)	230 (2)
	実績	145 (0)	189 (0)	204 (1)			
来訪者満足度 (%)	目標	95 (-)	85 (-)	85 (-)	85 (30)	85 (50)	85 (50)
	実績	81.5 (-)	93 (-)	82 (-)			
リピーター率 (%)	目標	90 (-)	90 (-)	90 (-)	90 (10)	90 (10)	90 (10)
	実績	83.3 (-)	87 (-)	85 (-)			

括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値

目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

旅行消費額並びに延べ宿泊者数の実績は、平成30年度まで福岡県が実施していた福岡県観光統計と同一の調査を実施している。また、平成29年度より交流人口動態調査を実施しており、調査結果を踏まえ目標の設定をしている。なお、令和4年秋以降の旅行消費額並びに延べ宿泊者数の数値が増加したことから、令和5年度以降は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響が無くなることを想定し、正・副理事長や商工会議所会頭・商工会会長（理事）市町村観光担当者と協議のうえ目標を変更し決定した。

【設定にあたっての考え方】

旅行消費額

令和4年10月以降のマーケティングエリアでの旅行消費額は、コロナ禍前までの水準まで回復しており、コロナ禍前の水準まで戻ることを想定し、令和5年度の目標消費額を設定している。また、令和7年度前後に新規の道の駅がオープンすることから、令和7年度の旅行消費額が増加（域内の道の駅に売上げ平均が5億円程度（域内旅行消費額の13%程度）であり、既存4施設の売上げ減少分を考慮している。）することを想定している。

延べ宿泊者数

令和4年度の宿泊者数はコロナ禍前の水準に回復している。マネージメントエリア内での宿泊施設の新規開業が見込まれていないため、目標数は令和4年度の実数を微増するものとしている。

来訪者満足度

来訪者満足度の算出方法は福岡市での対面アンケートによる回答である。イベント等の満足度は高い数値であった。しかし、満足度に反映されていない、交通アクセスに係る不満足度は58%である。不満足度が高い原因として、福岡都市圏からの所要時間（平均70分程度）鉄道でのアクセスの悪さ、高速バスの料金の高さが理由と考えられる。このため、次年度以降はイベント（来訪目的）の内容、交通アクセス、おもてなし、食事等の複数の回答合計を満足度に反映させる。こ

これらのデータの取得、検証方法については、令和5年度の福岡県DMO新規事業創出支援事業を活用し、専門家のアドバイスを受け実施する。目標値については、過去3年の実数値を根拠に今後3年間の目標数値として暫定的に記載しており、令和5年度の事業により得られた実数値を参考に適切に目標数値を変更する予定である。なお、インバウンドの来訪者満足度調査は、コロナ禍で未実施であり九州オルレ等の参加者から本年度より取得予定である。

リピーター率

本年度は昨年と同様に福岡県内住民を中心とした分析に努めた。サンプル数を増やすため、観光誌「はっち」の紙面を活用し、アンケート調査（田川地域にて温泉施設を利用、買い物をした人が投函できる仕様）を実施しており、リピーター率は約85%となっている。但し、福岡市で実施したアンケートでは半年間で、田川地域に来訪予定の観光客は42%であり、上記のアンケートのリピート率の差を埋める取組を行う。また、令和5年度の福岡県DMO新規事業創出支援事業を活用し、リピート率の調査方法や項目を変更する。なお、今後の目標数値（3年間）は、過去3年の実数値平均が85%で安定していることから、5%増の90%で記載しており、本年度で得られた実数値を反映させ適切に目標値を設定する変更する予定である。

観光誌「はっち」の配架については下記の施設に配架。

福岡県、大分県（一部）の道の駅、福岡市、北九州市の観光案内所、福岡県内市町村（市民センターなど公共施設）、域内宿泊施設、域内温泉施設、域内鉄道駅舎、域内タクシー内等の県内約550施設に配架。

（2）その他の目標

指標項目		2020	2021	2022	2023	2024	2025
		(R2) 年度	(R3) 年度	(R4) 年度	(R5) 年度	(R6) 年度	(R7) 年度
観光入込客数 (千人)	目標	4,519 (56)	3,714 (10)	4,599 (2)	4,200 (12)	4,300 (13)	4,500 (13.5)
	実績	3,243 (1)	2,913 (0)	3,458 (6)			
観光地認知度	目標	18 (-)	80 (-)	90 (-)	90 (3)	90 (5)	90 (5)
	実績	29.4 (-)	89 (-)	85 (-)			
YouTubeチャンネル登録数	目標	- (-)	250 (-)	500 (-)	1,500 (-)	2,000 (-)	3,000 (-)
	実績	24 (-)	400 (-)	910 (-)			
WEBアクセス数	目標	250 (-)	263 (6)	250 (5)	294 (10)	309 (10)	333 (10)
	実績	241 (6)	237 (6)	279 (8)			

指標項目及び目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

観光客入込数の増加は交流人口拡大を目標とする（一社）田川広域観光協会の方針と合致するため目標と定め、観光地認知度は観光客の来訪目的を図るために設定した。また、情報発信の効果を確認するひとつの目安として、WEBアクセス数とYouTubeチャンネル登録数を設定している。

【設定にあたっての考え方】

観光入込客数

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受け外出自粛等の影響も、令和5年10月以降は回復の傾向がみられており、令和5年以降はコロナ禍からの回復が見込めるため、コロナ禍前の旅行消費額と単価の数値から算出した。なお、インバウンドの観光入込客数は総客数の3%に設定している。

田川地域の認知度

認知度調査はメインターゲットである福岡市での対面アンケート調査によるものであり、「田川地域の観光地を知っているか」という質問項目を設定し実施した。なお、インバウンドの観光地認知度は韓国の釜山及び済州島での認知度を目標設定とする。

YouTubeチャンネル登録数

田川広域観光協会では歴史・文化に係る動画を動画投稿サイトYouTubeにて動画配信を実施している。過去、フェイスブックをKPIの目標数値に設定していたが、フェイスブックの利用者減少を鑑み、新たな目標指数としてYouTubeチャンネル登録者数をKPIに設定した。

WEBアクセス数

令5年度の実績をもとに毎年5%のアクセス数増加を目標に設定している。

7. 活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

(1) 収入

年(年度)	総収入(円)	内訳(具体的に記入すること)
2020(R2) 年度	34,958,381円	【国からの交付金】(地方創生加速化交付金) 17,000,000円 【市町村負担金】 6,000,000円 【商工会議所・商工会負担金】 400,000円 【受託事業収入】 8,206,000円 【収益事業】 368,374円 【会費】 1,588,000円 【協会運営強化金より捻出】 581,520円 【前期繰越金】 121,352円 【その他】 693,135円
2021(R3) 年度	24,196,055円	【市町村負担金】 6,000,000円 【商工会議所・商工会負担金】 400,000円 【受託事業収入】 7,766,000円 【収益事業】 18,415円 【会費】 1,421,000円 【協会運営強化金より捻出】 5,000,000円 【前期繰越金】 3,540,598円 【その他】 50,042円

2022 (R 4) 年度	34,326,994 円	【市町村負担金】 6,000,000 円 【商工会議所・商工会負担金】 4 00,000 円 【受託事業収入】 7,546,000 円 【収益事業】 180,270 円 【会費】 1,138,000 円 【協会運営強化金より捻出】 12,500,000 円 【前期繰越金】 5,562,673 円 【その他】 1,000,051 円
2023 (R 5) 年度	27,947,000 円	【市町村負担金】 6,000,000 円 【商工会議所・商工会負担金】 4 00,000 円 【受託事業収入】 6,400,000 円 【収益事業】 1,975,000 円 【会費】 2,000,000 円 【協会運営強化金より捻出】 3,000,000 円 【前期繰越金】 7,860,000 円 【その他】 312,000 円
2024 (R 6) 年度	22,400,000 円	【市町村負担金】 6,000,000 円 【商工会議所・商工会負担金】 4 00,000 円 【受託事業収入】 7,000,000 円 【収益事業】 1,500,000 円 【会費】 2,500,000 円 【協会運営強化金より捻出】 5,000,000 円
2025 (R 7) 年度	22,400,000 円	【市町村負担金】 6,000,000 円 【商工会議所・商工会負担金】 4 00,000 円 【受託事業収入】 7,000,000 円 【収益事業】 1,500,000 円 【会費】 2,500,000 円 【協会運営強化金より捻出】 5,000,000 円

(2) 支出

年 (年度)	総支出	内訳 (具体的に記入すること)
2020 (R 2) 年度	34,958,381 円	【一般管理費】 11,167,106 円 【情報発信・プロモーション活動】 15,837,413 円 ・観光誌・スタンプラリーの発行 ・新規ホームページの開設 ・旅行会社等タイアップ企画 ・インバウンド対策 (ツアー) (0 円) 【マーケティング (人材育成含む)】 1,762,316 円 ・人材育成セミナー ・認知度調査 【観光イベントの開催費】 1,921,948 円 【歴史・文化に係る図書作成費】 500,000 円 【会員維持促進費・予備費】 158,000 円 【租税公課】 71,000 円 【次年度繰越金】 3,540,598 円
2021 (R 3) 年度	24,196,055 円	【一般管理費】 10,285,489 円 【情報発信・プロモーション活動】 6,655,300 円

		<ul style="list-style-type: none"> ・観光誌・スタンプラリーの発行 ・観光誘客自主事業 ・観光 P R 動画制作 <p>【マーケティング（人材育成含む）】 228,805 円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知度調査 <p>【市民講座の開催費】 387,962 円</p> <p>【歴史・文化に係る図書作成費】 895,000 円</p> <p>【会員維持促進費・予備費】 96,500 円</p> <p>【その他】 13,326 円</p> <p>【租税公課】 71,000 円</p> <p>【次年度繰越金】 5,562,673 円</p>
2022（R4） 年度	34,326,994 円	<p>【一般管理費】 9,331,098 円</p> <p>【情報発信・プロモーション活動】 3,922,810 円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光誌・スタンプラリーの発行 ・観光誘客自主事業 ・観光 P R 動画制作 ・インバウンド対策（ツアー） (200,000 円) <p>【マーケティング（人材育成含む）】 132,984 円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知度調査 <p>【歴史・文化に係る図書作成費】 8,127,950 円</p> <p>【観光イベントの開催費】 3,148,686 円</p> <p>【市民講座の開催費】 625,208 円</p> <p>【会員維持促進費・予備費】 78,100 円</p> <p>【その他】 1,028,840 円</p> <p>【租税公課】 71,000 円</p> <p>【次年度繰越金】 7,860,318 円</p>
2023（R5） 年度	27,947,000 円	<p>【一般管理費】 10,458,000 円</p> <p>【情報発信・プロモーション活動】 4,000,000 円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光誌・スタンプラリーの発行 ・観光誘客自主事業 ・観光 P R 動画制作 ・インバウンド対策（ツアー） (1,800,000 円) <p>【マーケティング（人材育成含む）】 500,000 円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視察研修 ・認知度調査 <p>【歴史・文化に係る図書作成費】 5,056,000 円</p> <p>【観光イベントの開催費】 1,500,000 円</p> <p>【市民講座の開催費】 2,000,000 円</p>

		【会員維持促進費・予備費】	200,000 円
		【その他】	1,400,000 円
		【予備費】	2,833,000 円
2024 (R 6) 年度	22,400,000 円	【一般管理費】	10,500,000 円
		【情報発信・プロモーション活動】	4,500,000 円
		・観光誌・スタンプラリーの発行	
		・観光誘客自主事業	
		・観光 P R 動画制作	
		・インバウンド対策 (ツアー)	(1,500,000 円)
		【マーケティング (人材育成含む)】	500,000 円
		・視察研修	
		・認知度調査	
		【観光イベントの開催費】	2,300,000 円
		【市民講座の開催費】	2,000,000 円
		【会員維持促進費・予備費】	200,000 円
		【その他】	1,400,000 円
		【予備費】	1,000,000 円
2025 (R 7) 年度	22,400,000 円	【一般管理費】	10,500,000 円
		【情報発信・プロモーション活動】	3,500,000 円
		・観光誌・スタンプラリーの発行	
		・観光誘客自主事業	
		・観光 P R 動画制作	
		・インバウンド対策 (ツアー)	(1,500,000 円)
		【マーケティング (人材育成含む)】	500,000 円
		・視察研修	
		・認知度調査	
		【観光イベントの開催費】	2,300,000 円
		【市民講座の開催費】	3,000,000 円
		【会員維持促進費・予備費】	200,000 円
		【その他】	1,400,000 円
		【予備費】	1,000,000 円

(3) 自律的・継続的な活動に向けた運営資金確保の取組・方針

田川広域観光協会の事業展開や協会単独による補助金等の獲得のため一般会計とは別に運営資金を運用している。令和 5 年 3 月 3 1 日における運営資金は約 2 千 5 百万円の資金がある。

田川古代史フォーラムなどの自主事業による入場料収入やイベント参加費により資金確保。

負担金確保のため構成市町村に負担金措置の依頼を継続的に実施している。

受託事業収入確保のため福岡県や市町村に事業継続を依頼し受託事業収入の安定的な確保を実施している。

1 市 6 町 1 村に在住する会員からの会費を確保。

8 . 観光地域づくり法人形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見

福岡県、田川市、香春町、添田町、糸田町、川崎町、大任町、赤村、福智町は、観光地域まちづくり法人（地域連携DMO）である（一社）田川広域観光協会を田川地域における観光振興のプラットフォームとして今後も支援・活用いたします。

9 . マネジメント・マーケティング対象区域が他の地域連携DMO（県単位以外）や地域DMOと重複する場合の役割分担について（重複しない場合は記載不要）

【他の地域連携DMOや地域DMOとの間で、重複区域に関する連携や役割分担等について協議を行った（行っている）か】

10 . 記入担当者連絡先

担当者氏名	坪根 法広
担当部署名（役職）	一般社団法人田川広域観光協会（課長）
郵便番号	825-8501
所在地	田川市魚町8-27 三愛ビル1階
電話番号（直通）	0947-45-0700
FAX番号	0947-45-0710
E-mail	tagawa-net@tagawa-net.jp

11 . 関係する都道府県・市町村担当者連絡先

都道府県・市町村名	田川市
担当者氏名	田辺 秀一
担当部署名（役職）	産業振興課（課長）
郵便番号	825-8501
所在地	田川市中央町1番1号
電話番号（直通）	0947-85-7147
FAX番号	0947-46-0124

E - m a i l	mi_ryoku@lg.city.tagawa.fukuoka.jp
-------------	--

都道府県・市町村名	香春町
担当者氏名	佐野 秀徳
担当部署名(役職)	産業振興課 (課長)
郵便番号	822-1492
所在地	田川郡香春町大字高野 994 番地
電話番号(直通)	0947-32-8406
F A X 番号	0947-32-4815
E - m a i l	shokoukankou@town.kawara.fukuoka.jp

都道府県・市町村名	添田町
担当者氏名	藤川 修二
担当部署名(役職)	商工観光振興課(課長)
郵便番号	824-0691
所在地	田川郡添田町大字添田 2151 番地
電話番号(直通)	0947-82-1236
F A X 番号	0947-82-2869
E - m a i l	kankou@town.soeda.fukuoka.jp

都道府県・市町村名	糸田町
担当者氏名	木村 成伸
担当部署名(役職)	地域振興課 (課長)
郵便番号	822-1392
所在地	田川郡糸田町 1975 番地 1
電話番号(直通)	0947-26-4025
F A X 番号	0947-26-1651
E - m a i l	chiiki@town.itoda.lg.jp

都道府県・市町村名	川崎町
担当者氏名	野相 巧美
担当部署名(役職)	商工観光課 (課長)
郵便番号	827-8501
所在地	田川郡川崎町大字田原 789 番地 2
電話番号(直通)	0947-72-3000(代表)
F A X 番号	0947-72-3416
E - m a i l	syoukou@town.fukuoka-kawasaki.lg.jp

都道府県・市町村名	大任町
担当者氏名	松本 秀明
担当部署名(役職)	産業経済課 (課長)
郵便番号	824-0512
所在地	田川郡大任町大字大行事 3067 番地
電話番号(直通)	0947-63-3001
F A X 番号	0947-63-3813
E - m a i l	sankei2@town.oto.fukuoka.jp

都道府県・市町村名	赤村
担当者氏名	田中 秀幸
担当部署名(役職)	総務課 (課長)
郵便番号	824-0432
所在地	田川郡赤村大字内田 1188 番地
電話番号(直通)	0947-62-3000
F A X 番号	0947-62-3007
E - m a i l	aka-seisaku@vill.aka.lg.jp

都道府県・市町村名	福智町
担当者氏名	木村 貴代美
担当部署名(役職)	まちづくり総合政策課 (課長)
郵便番号	822-1292
所在地	田川郡福智町金田 937 番地 2
電話番号(直通)	0947-22-7766
F A X 番号	0947-22-9091
E - m a i l	fg0500@town.fukuchi.lg.jp

都道府県・市町村名	福岡県
担当者氏名	吉田 聡
担当部署名(役職)	企画・地域振興部市町村振興局政策支援課(課長)
郵便番号	812-8577
所在地	福岡市博多区東公園 7-7
電話番号(直通)	092-643-3180
F A X 番号	092-643-3164
E - m a i l	seisakus@pref.fukuoka.lg.jp

都道府県・市町村名	福岡県
担当者氏名	吉田 憲和

担当部署名（役職）	商工部観光局観光政策課
郵便番号	812-8577
所在地	福岡市博多区東公園 7-7
電話番号（直通）	092-643-3419
F A X 番号	092-643-3131
E - m a i l	kanko@pref.fukuoka.lg.jp

基礎情報

【マネジメント・マーケティング対象とする区域】

福岡県、田川市、香春町、添田町、糸田町、川崎町、大任町、赤村、福智町

【設立時期】平成24年4月12日(法人登録)

【設立経緯】

区域に観光協会があるが、役割分担等をした上でDMO新設

【代表者】理事長(代表理事) 菅原 潔

【マーケティング責任者(CMO)】坪根 法広

【財務責任者(CFO)】太田 傳

【職員数】3人(常勤3人(正職員3人))

【主な収入】(令和4年度決算:合計34百万円)

基金13百万円、委託事業8百万円、負担金6百万円、会費等2百万円
協会基金である運営強化金(2千5百万円)を運用している。

【総支出】(令和4年度決算:合計34百万円)

管理費9百万円、自主事業9百万円、情報発信4百万円、誘客活動4百万円

【連携する主な事業者】

- ・JR九州、日本航空、平成筑豊鉄道、田川構内グループ(交通事業者)
- ・道の駅(4施設)、温泉施設(5施設)、域内観光協会(3団体)等
- ・域内の商工会議所(2団体)・商工会(6団体)や農協、青年会議所等の団体

記入日: 令和5年7月21日

KPI(実績・目標)

()内は外国人に関するもの。

項目		2020 (R2)年	2021 (R3)年	2022 (R4)年	2023 (R5)年	2024 (R6)年	2025 (R7)年
旅行消費額 (百万円)	目標	2,900 (40)	2,500 (50)	3,010 (20)	4,074 (80)	4,481 (80)	4,800 (100)
	実績	2,165 (1)	2,315 (1)	3,704 (37)			
延べ 宿泊者数 (千人)	目標	180 (2)	150 (1)	205 (2)	210 (2)	220 (2)	230 (2)
	実績	145 (0)	189 (0)	204 (1)			
来訪者 満足度 (%)	目標	95 (-)	85 (-)	85 (-)	85 (30)	85 (50)	85 (50)
	実績	81.5 (-)	93 (-)	82 (-)			
リピーター率 (%)	目標	90 (-)	90 (-)	90 (-)	90 (10)	90 (10)	90 (10)
	実績	83.3 (-)	87 (-)	85 (-)			

戦略

【主なターゲット】

福岡市、北九州市及びその周辺に住むシニア層

【ターゲットの誘客に向けた取組方針】

九州の20%の人口を有する両都市は、年に複数回の来訪可能な距離に位置しており、スタンプラリーや観光誌の戸別配付により来訪機会を増やす取組を実施している。

【観光地域づくりのコンセプト】

「観光による地域振興」は「まちづくり」であるという協会理念のもと各種事業の展開を図っている。「石炭」、「香春岳」、「英彦山」など歴史や史跡に直結したイメージ(認知度)があることから、それらにスポットを当てた観光PRを実施している。

具体的な取組

【観光資源の磨き上げ】

・鉄道×産業×観光

JR九州の協力により観光列車が田川地域に入線。また、地場産業であるセメント工場や漆喰工場を見学するツアー商品化している。九州一円を含め、関東や関西からの参加者がいた。
右下の画像のセメント工場中央にJR船尾駅が所在している。

・自然×観光

山岳ガイドが同行する付加価値の高い登山・トレッキングイベントを実施。

【情報発信・プロモーション】

・観光誌「はっち」の発行

年2回 合計6万部の発行

・YouTubeの公式チャンネルの運営

チャンネル登録約900人

再生回数は年間7万回程度

・公式サイト「たがわネット」の運営

【その他】

・郷土史誌「新・田川紀行」の発行

販売価格5,000円

ページ数442ページ

県図書館や小中高学校、大学に寄贈

